

東京圏国家戦略特別区域会議（第1回）終了後記者会見

日 時：平成26年10月1日（水）19：09～19：20

場 所：中央合同庁舎8号館 講堂

（冒頭発言）

第1回東京圏国家戦略特別区域会議が先ほど了したところでは、

関係者が多いものでありますから、調整に時間を要したのですが、ようやく立ち上げることができたということです。本日の出席者は御案内のとおりで、東京圏国家戦略特別区域計画の素案につきまして議論しました。また、政務4役、民間有識者にも出席いただいたところでは、

東京圏の区域計画素案には、規制改革を伴う事業として、東京都では主に都市再生・まちづくり分野、神奈川県及び成田市では主に医療分野における取組を掲げています。そのほかにも、今後の追加的な取り組みとして、外国人家事支援人材の活用、法人設立手続の迅速化・簡素化についても記載をしておるところでは、

この国家戦略特区は、2015年度末までの1年半が集中取組期間ということではありますが、岩盤規制改革全般について突破口を開くということでもあります。本日、出席者からいろいろな御意見を賜りました。必要であれば後ほど事務方から説明をさせます。この御意見を踏まえ、内容の具体化を加速させたいと思っております。次回の区域会議におきまして、第1弾の区域計画を決定したいと、かように考えておる次第では、

（質疑応答）

問： 日経新聞の松尾です。2点あります。一つは、国による東京圏の特区計画の認定について、今後のスケジュール、例えば年内にも目指したいとかそのあたりがあれば教えてください。

もう一つは、石破大臣として、今回、東京圏の国家戦略特区をどういうものにしたのか。規制緩和を活用してどういう地域にしたいのかというコンセプトというか、イメージなどありましたら、お教えてください。

答： 今後のスケジュールではありますが、これは国家戦略特区法に基づきまして、2週間の期間を設けまして、新たに参加を希望される事業者の方々から申し出を受け付けるということでもあります。今回、区域計画に盛り込まれた事業について、新たに参加を希望する方があるかもしれません。

このような手続を経た後に、順次認定を行いたいということでありまして、これは要件を満たせばということではあります。順次できるだけ早くということだと認識しております。

東京圏についてですが、これはかねてから申し上げておりますとおり、東京も地

方もどちらも発展するということではなければなりませんし、特に東京はいろいろなポテンシャルを秘めている地域でございます。ですから、東京が日本全体を牽引するというだけではなりません。もちろん地方もいろいろなポテンシャルを生かして、東京と地方、両方が潜在力を最大限に発揮することが必要だと思っております。

交通の集積がございますし、人材の集積も東京はありますので、そこを生かした事業ができないか、ということです。2020年のオリンピック・パラリンピックを目指して、それまでにこういう特区を生かした東京の活力創出ということが姿をあらわす、ということを経験感としては持っておるところです。

問： 毎日新聞の田中と申します。資料の4ページですけれども、千葉県成田市において国際的な医療人材の育成のための医学部等の新設等に関する検討、とあります。これは新設等について検討して結論を得るといふ書き方になってはいますが、まだ具体化していない段階ということでしょうか。

答： 具体化が何を指しているのかわかりませんが、いろいろな観点から検討していかねばならないものだと思っております。これは成田という地域に着目して、国際化というものが進んでいるということ。そして、事業者の方のお話を聞けば、医師の偏在を解消するものであり、あるいは医学部に入るに当たって極めて多くの資金を必要するということを解消せねばならないという考えも承ったところではあります。

さまざまな観点から検討して、結論を出していかねばならないと思っております。この考えの有益性、有効性というものは認識しておるところですが、いろいろな方の御意見を聞きながら、この話も長く時間を要していることですので、いつまでも検討することではなりません。検討して結論を得ると書いたのは、そのような含意に基づくものです。

問： そうしますと次回の区域会議までに新設するか結論を出すという理解でよろしいですか。

答： いついつまでにとすることは断定できません。しかしながら、結論をいつまでも遅延をさせてはならないと承知しております。

問： 千葉日報の石井といいます。関連して成田に関してですけれども、結論を出すということは、現段階ではイエスかノーかは言わないが、いずれにしろそういう形で発表するということがよろしいのですか。

答： それは発表しなければ結論を出したことにはなりません。

問： 成田市はもう一つ、エアポート構想というものを出していたのですけれども、これについてはどのような形になるのでしょうか。

答： これは今日、市長から具体的にいろいろなお話を承りました。市長のお話の中で、エアポート構想により成田の持つ力を発揮していきたい、ということで、例えば農業で申し上げれば、成田は今もそうでしょうが、千葉県の実業の中心地の1つでもございます。そこで特区の特例により農地を潰して他のものにするのではなくて、空港を使って農産物を輸出する。このことによって農地の活用度を上げ、日本の農産物の輸出にも寄与したい、というお話でありました。ある資源をどのようにフルに活用していくか、ということは極めて重要なことであって、その視点から有益なものだと考えております。このことについてもきちんと積極的に検討し、その気持ちをなるべく生かしたいと思っておりますが、子細な検討は必要だと思っております。お話はかなり私としては感銘深く聞きました。

問： フジテレビの長谷川と申します。東京都の指定区域の追加なのですから、準備中の9区の指定はどのぐらいの時期になるのかというか、スケジュール感みたいなものはあるのでしょうか。

答： これは私どもとして、当初から東京都全域を特区の区域とすべきであるということをお願いしてきたところがございます。したがって、多摩地域も含むものでありまして、東京都の検討状況の進捗を促しまして、判断をしていきたい。私どもとして、かねてからそのようにお願いしておるところであり、東京都もそれを真摯に受けとめて検討していただいているものと認識をしております。